

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸が原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問調査)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問調査)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	61人	算数	61人	理科	61人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	58人	算数	58人	理科	58人
------	----	-----	----	-----	----	-----

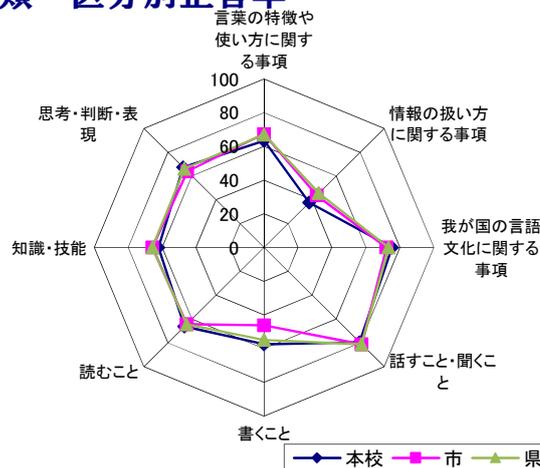
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	63.4	67.4	67.1
	情報の扱いに関する事項	37.7	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	75.4	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	79.5	81.2	81.2
	書くこと	57.4	46.2	54.9
	読むこと	66.2	64.3	64.5
観点	知識・技能	62.2	65.7	65.7
	思考・判断・表現	67.3	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

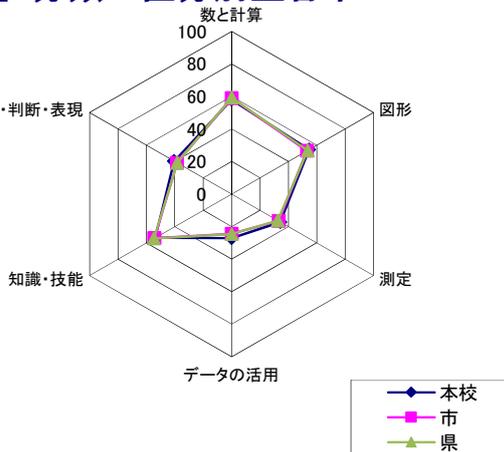
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を4.0ポイント下回った。</p> <p>○主語と述語の組み合わせを選ぶ問題では、市の平均正答率を15.9ポイント、対義語を選ぶ問題では9.0ポイント上回った。</p> <p>○ローマ字を読む問題では、市の平均正答率より7ポイント上回った。タイピング練習を積み重ねてきた結果であると考えられる。</p> <p>●漢字の読みは、市の平均正答率より12.1～19.0ポイント、書きは10.2～15.4ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、文章において、主語と述語、修飾被修飾などの関係を捉えさせ、文の構成について習熟を図る。 ・ローマ字の記述の学習や、パソコンへのローマ字入力などの機会を増やし、繰り返し練習させ習熟を図る。 ・漢字オリンピックなどを活用し、漢字練習に主体的に取り組ませたり、小テストを定期的実施したりして、読み書きの定着を図る。 ・新出漢字を学習する際、その漢字を使う言葉を挙げさせるなど、漢字活用能力の向上とともに語彙力の向上も図ることができるよう指導する。
情報の扱いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を6.1ポイント下回った。</p> <p>●例文中の語句の意味として適するものを選ぶ問題では、市の平均正答率より6.1ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館司書と連携し、国語辞典を用いて語句の意味を調べて例文を作ったり、慣用句について調べたりする学習を増やすことによって、語彙力を向上させ、語句の正しい意味を選択して活用する能力の向上を図る。 ・正しい語彙や語句を活用するために、「消去法」などの課題解決の方法を指導し、情報の取捨選択や情報処理能力の向上を図る。
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を3.3ポイント上回った。</p> <p>●漢字のへんとつくりを組み合わせ、使わないつくりを選ぶ問題では、市の平均正答率より3.3ポイント下回った</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を学習する際、漢字の組み立てや部首の意味などにも着目して覚えていくよう指導する。 ・朝の学習、宿題、自主学習などを活用し、部首についての知識を広げる。
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均を1.7ポイント下回った。</p> <p>○話し手が話した内容を説明する文として適したものを選ぶ問題では、市の平均正答率を3.8ポイント上回った。</p> <p>●司会者の話し方の工夫を説明した文として適するものを選ぶ問題では、市の平均正答率を4.3ポイント下回った。</p> <p>●課題となる意見について理由を挙げながら自分の考えを文章にまとめる問題では、市の平均正答率を2.9ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な学習で、自分の考えとその理由を明確にして話す機会を増やし、論理的に説明する力の育成を図る。 ・話し手の伝えたいことを明確に捉えたり、意見の根拠となる理由を考えながら聞く機会を設け、聞く態度を形成する。 ・話し合い活動の機会を増やし、司会や意見の発表などの経験を重ねることにより、意見を交わす能力を習得させる。
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均を11.2ポイント上回った。</p> <p>○文章を書くときの注意点をよく守っている。6行から8行の間で文章を書くという条件を守って書いた正答率は、市の平均正答率を11.2ポイント、廊下を安全に歩く方法について1つ目の段落にどちらの方法が良いかという条件を守って書いた正答率は、市の平均正答率を11.4ポイント、上回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを明確にし、文章に表すことができているので、今後も自分の考えをしっかりともち、その理由を含めて文章化していく機会を設け、文章力を育成していく。 ・接続語を使い、段落を意識して文章を構成していく練習を重ねる。
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均を1.9ポイント上回った。</p> <p>○説明文の段落の内容ごとのまとまりの分け方として適するものを選ぶ問題では、市の正答率を8.3ポイント、文章の内容を説明して文として適するものを選ぶ問題では、市の正答率を8ポイント上回った。</p> <p>●物語の登場人物の行動の理由を説明した文として適したものを選ぶ問題では、市の平均正答率を6.9ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文の内容を正確にとらえることはよくできているので、今後も様々な文章に触れ、内容を把握する力の向上を図る。 ・様々な物語に触れ、場面の様子や登場人物の行動の要因を関連付ける学習を重ね、物語の場面の様子を捉える力の向上を図る。

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	58.0	58.9	59.2
	図形	54.6	53.0	53.7
	測定	34.4	33.1	32.6
	データの活用	27.1	24.4	24.6
観点	知識・技能	53.8	54.3	54.7
	思考・判断・表現	40.6	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

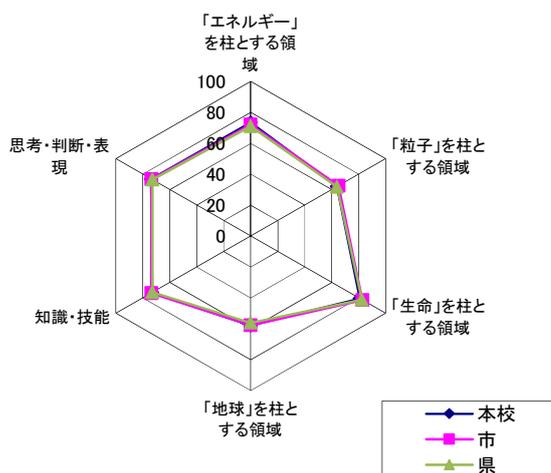
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均より0.9ポイント下回った。</p> <p>○数量の関係について正しい図を選ぶ問題では、正答率は83.6%であり、市の平均を11.7ポイント上回っていた。</p> <p>○3けた+3けた=4けたの計算をする問題では、正答率は88.5%であり、市の平均を2.1ポイント上回っていた。</p> <p>●整数-小数第一位の計算をする問題では、正答率は44.3%であり、市の平均を11.7ポイント下回っていた。</p>	<p>・整数だけでなく、小数や分数の四則計算についても、反復練習をしていくようにする。筆算のたし算・ひき算は位をそろえるなどの基礎的な確認もする。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均より1.6ポイント上回った。</p> <p>○球の性質を利用し、球が入った箱の長さを求める問題では、正答率は57.4%であり、市の平均を6.8ポイント上回っていた。</p> <p>●二等辺三角形になる図を選ぶ問題では、正答率は63.9%であり、市の平均を5.8ポイント下回っていた。</p>	<p>・二等辺三角形の定義と性質を繰り返し確認したうえで、実際に紙を使って、折ったり切ったりする活動の機会を設け、図形の感覚を育てていく。</p>
測定	<p>平均正答率は、市の平均より1.3ポイント上回った。</p> <p>○重さの単位を理解し、合計の重さの大小を比較することができるかどうかを見る問題の正答率は36.1%で、市の平均を9.8ポイント上回っていた。</p> <p>●地図から道のりを読み取り、2つの道のりの差を求めることができるかどうかをみる問題の正答率は39.3%で、市の平均を6.2ポイント下回った。</p>	<p>・地図の道のりを読み取り、計算することはできていたが、差を求めていない誤答が14.8%であった。引き続き、問題文を最後まで丁寧に読み、正しく解答していくよう指導していく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均より2.7ポイント上回った。</p> <p>○棒グラフを読み取り、二番目に多い落とし物の種類を答える問題の正答率は55.7%で、市の平均を7.9ポイント上回った。</p> <p>○適切な棒グラフから示された値を読み取ることができるかどうかをみる問題の正答率は16.4%で、市の平均を1.2ポイント上回っている。しかし、問題の文意どおりに正しくグラフが読み取れない誤答が54.1%で、市の平均を12ポイント上回った。</p>	<p>・棒グラフを読み取るだけでなく、問題文を理解して、複数のグラフから必要な種類のグラフを選ぶなど、棒グラフの特徴や利点を生かし身の回りで活用する機会を設け、理解を深めていくようにする。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【理科】分類・区別別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	73.4	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	63.9	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	80.9	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	57.9	57.7	56.2
観点	知識・技能	73.1	73.8	72.8
	思考・判断・表現	73.9	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均を1.3ポイント上回った。</p> <p>○実験の結果から風がものを動かすはたらきの変化を読み取る問題では、市の平均正答率を10.4ポイント上回った。</p> <p>○実験結果から回路の見えない部分について推測する問題では、市の平均正答率を5.7ポイント上回った。</p> <p>●磁石に引きつけられるものについて理解しているかを見る問題では、市の平均正答率を3.9ポイント下回った。</p> <p>●電気を通すものについて理解しているかを問う問題では、市の平均正答率を5.2ポイント下回った。</p>	<p>・実際に授業で行った実験に関する問題では、正答率が高かった。</p> <p>・ものの特徴をもとに、課題を読み取ったり、考えたりする問題では、正答率が低かった。授業の中で、実験を取り入れながら、知識を身に付けさせたり、理解を深めたりしていく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均を1.3ポイント下回った。</p> <p>●形を変えても重さはかわらないことについて理解しているかを見る問題では、市の平均正答率を2.1ポイント下回った。</p> <p>●同じ体積でも、ものの種類によって重さがちがうことについて表と関連づけて考える問題では、市の平均正答率を1.3ポイント下回った。</p>	<p>・ものの特徴をもとに、課題を読み取ったり、考えたりする問題についての正答率が低かった。どんな特徴があるかだけでなく、どうしてそうなるのかを考えたり、実際にどんなことに使われているのかを調べたりする活動などを取り組むことで、応用的な課題にも取り組むように指導する。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均を1.9ポイント下回った。</p> <p>○植物のからだのつくりの共通点を選ぶ問題では、市の平均を2.2ポイント上回った。</p> <p>○昆虫のからだのつくりについて理解しているかを見る問題では、市の平均を2.3ポイント上回った。</p> <p>●植物のめばえについて理解しているかを見る問題では、市の平均を6.7ポイント下回った。</p> <p>●昆虫とダンゴムシのからだのつくりの違いをとらえることができるかを見る問題では、市の平均を4.0ポイント下回った。</p>	<p>・植物や昆虫のからだのつくりに関する問題が市の平均よりも高い。観察がよくできていることに注目し、校内の自然に触れ、昆虫の飼育の観察記録などを取ることで、生命を身近な存在に感じられるようにし、発展的な問題にも対応できるように指導する。</p> <p>・からだのつくりの違いを求める短答式での問題は、正答率が低かった。語彙力を高める指導や多くの問題に取り組ませながら、日々の指導を行っていく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均を0.2ポイント上回った。</p> <p>○太陽が動く方位を理解しているかを見る問題では、市の平均を3.9ポイント上回った。</p> <p>●かげが太陽の反対側にできることを理解し、かげふみの動きと結び付けられているかどうかを見る問題では、市の平均を0.3ポイント下回った。</p> <p>●方位磁針の使い方を身に付けているかを見る問題では、市の平均を3.0ポイント下回った。</p>	<p>・太陽の動きに関する問題は正答率が高かったが、太陽とかげの結び付きに関する問題では正答率が低かった。スマイルネクストドリル等を活用し、繰り返し問題に取り組ませる。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○●「勉強している、おもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定的回答割合は85.3%、「『不思議だな』『なぜだろう』と感
じることがある」肯定的回答は83.6%で、ともに8割以上の児童が、興味をもって学習に取り組んでいることがうかがえる。ま
た、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」が96.8%で、9割以上の児童が粘り強くやり遂げたときの喜び
を経験している。一方で、「むずかしい問題はやる気が出る」は55.3%、「自分一人の力で課題を解決しようとしている」は
75.4%で、ともに市の平均を下回っており、あきらめずに根気強く問題を解くことが苦手な傾向が見られる。児童の興味関
心を引き出しながら、最後まで頑張って問題を解決した喜びを感じることができるよう指導法を工夫していきたい。

○●家庭学習に関しては、「宿題をしている」という質問の肯定的回答は93.4%、「宿題は自分のためになっている」は
98.4%で、9割以上の児童が、自分のために真面目に宿題をする習慣が身に付いていると言える。また、「自分で計画を立て
て学習している」は85.3%、「決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」は72.2%で、ともに市の平均を上
回っており、自主学習も習慣化されつつあると言える。だが、「復習をしている」は59.1%「同じ時刻に取り組むようにしてい
る」は54.1%で、ともに市の平均を下回っている。しっかりと宿題に取り組んでいることは大いに称賛し、意欲の継続を図り
たい。家庭学習については、取り組む時間や内容、方法等の改善が必要であり、具体例を挙げながら丁寧に指導してい
きたい。また、学年だよりや懇談会等で啓発を行ったり、協力を依頼したりするなど、引き続き家庭との連携を図りたい。

●読書については、平日に授業時間以外で読書をする時間は、10分以上30分未満が37.7%、2時間以上が3.3%であ
った。19.7%は全くしないと回答した。1か月に3冊以上読書をするのは65.5%であるが、2冊以下や1冊も読まない児童が4割
近くいる。多くの児童は家庭で読書をする時間が短く、冊数も少ない傾向であると分かる。今後も引き続き、読み聞かせポ
ランティアや学校図書館を活用するなど、司書と連携して読書活動を推進していきたい。

●平日のTV・DVD・動画の視聴時間について、2時間～4時間以上との回答は59%と6割近くになっている。このうち26.2%
が4時間以上と回答している。また、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式ゲーム、スマートフォンを使ったゲーム)を
2時間～4時間以上するとの回答は62.4%と6割を超えている。これらから、平日の多くの時間を費やしていることになる。時
間を計画的に使い、睡眠、宿題、自主学習、読書の時間を十分確保できるよう、家庭と連携しながら指導したい。

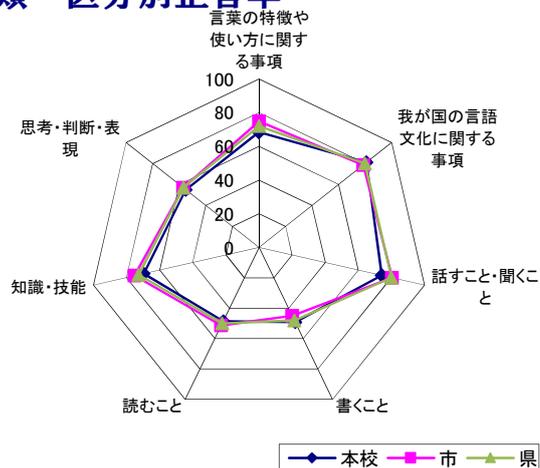
○●授業については、「集中して受けている」という質問の肯定的回答割合は95.1%、「友達の話や意見を最後まで聞くこ
とができる」は96.3%と非常に良い結果となっている。一方、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」は
46%と市の平均を下回っており、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」は70.5%である。この結果か
ら、授業に真剣に取り組む、友達の意見にしっかりと耳を傾けている児童が多いが、自分の考えを文章や話し言葉で表現
することを苦手とする傾向が見られる。今後は、表現方法を具体的に指導していくとともに、ペアやグループ活動を積極的
に取り入れるなど、表現の機会を設けることで、表現することに慣れ、自信をもつことができるように支援したい。

○「自分にはよいところがある」という質問の肯定的回答割合は91.9%、「自分のよさを人のために生かしたい」は93.5%
と、非常に良い結果となっている。9割以上の児童が自己肯定感をもって生活していることが分かる。また、「役割や係の仕
事にせきにんをもって取り組んでいる」は93.5%、「自分はクラスの人の役に立っていると思う」は75.4%で市の平均を8.1ポ
イント上回っており、当番や係活動を通して、自己有用感も高まってきていると考えられる。また、「家の人と学校のできごと
について話をしている」という質問の肯定的回答割合は90.2%、「家の人はほめてもらいたいことをほめてくれる」は95.1%、
「自分は家族の大切な一員だと思う」は98.3%で、どれも市の平均を上回っている。保護者の温かい支えによって、自分の
大切さに気付くとともに安心して過ごすことができている児童が非常に多いことがうかがえる。今後も、児童が自己肯定感
や自己有用感をもって充実した学校生活を送れるよう、個を大切に指導・支援を心掛けていきたい。

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	68.5	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	81.0	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	74.1	80.4	80.0
	書くこと	49.1	45.1	48.0
	読むこと	48.5	51.3	50.0
観点	知識・技能	69.6	75.2	72.8
	思考・判断・表現	55.1	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

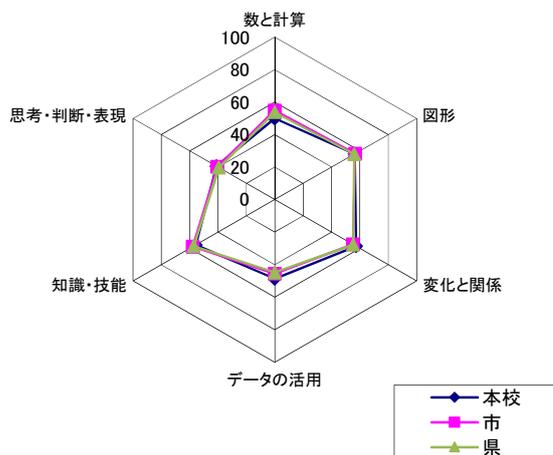
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を6.3ポイント下回った。</p> <p>○文を読み、様子を表す語として適する語を選ぶ問題では市の平均を1.6ポイント上回った。</p> <p>●漢字を正しく書く問題では、市の平均を7.4～16.0ポイント、読む問題では市の平均を2.5～12.9ポイント下回った。</p> <p>●修飾と被修飾の関係を捉えることができるかどうかをみる問題では、市の平均を3.4ポイント下回った。</p>	<p>・漢字練習やミニテストを継続的にを行い、漢字の読み書きの定着が図れるように指導する。</p> <p>・日記や作文指導などで、修飾と被修飾の関係を捉えることができるようにする。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を2.4ポイント上回った。</p> <p>○慣用句の意味を理解して、自分の表現に用いることができるかどうかをみる問題では、市の平均を2.4ポイント上回った。</p>	<p>・慣用句の意味を調べたり、慣用句を用いた短文作りを行ったりし、引き続き、ことわざや慣用句に興味をもって学習できる機会を設ける。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均を6.3ポイント下回った。</p> <p>●話し手が伝えたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる問題では、市の平均を11.1ポイント下回った。</p> <p>●意見の共通点や相違点に着目しながら、自分の考えをまとめる問題では、市の平均を6.0ポイント下回った。</p>	<p>・グループでの話し合いや学び合いの中で、友達の意見を受けて自分の考えを発表する機会を設け、話し手が伝えたいことの中心を考えたり、意見の共通点や相違点に着目したりして聞く態度を養う。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均を4.0ポイント上回った。</p> <p>○指定された長さで文章を書く問題では、市の平均を1.2ポイント上回った。</p> <p>○内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書く問題では、市の平均を2.8ポイント上回った。</p> <p>○内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書く問題では、市の平均を6.2ポイント上回った。</p>	<p>・日記や作文指導において内容を吟味し、段落や構成(始め・中・終わり)を意識して書くことを、今後も指導していく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均を2.8ポイント下回った。</p> <p>○説明文の叙述を基に文章の内容を捉える問題では、市の平均を7.2ポイント上回った。</p> <p>●登場人物の気持ちの変化について説明した文の空欄に適する言葉を書く問題の無回答率が25.9%で市の平均より14.0ポイント高く、正答率は、5.2ポイント下回った。</p> <p>●登場人物の性格を説明した文として、適するものを選ぶ問題では、市の平均を10.5ポイント下回った。</p>	<p>・叙述を基に登場人物の性格や気持ちの変化を想像し、それらについて話し合う活動を行うことで、物語分の内容を捉えることができるよう指導する。</p> <p>・朝の読書の時間を活用して様々な本に触れる機会を設けたり、読んだ本を紹介する活動を取り入れたりして、読解力を高められるようにする。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	50.0	54.9	53.7
	図形	56.3	56.6	56.1
	変化と関係	57.3	55.1	55.2
	データの活用	48.6	45.5	44.8
観点	知識・技能	55.6	57.8	57.2
	思考・判断・表現	41.1	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

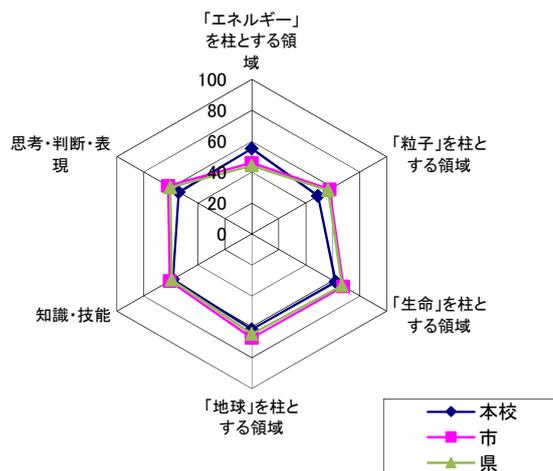
○良質な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均を4.9ポイント下回った。</p> <p>○大きな数の表し方については、市の平均とほぼ同じであり、学習の定着が見られた。</p> <p>●小数の計算や小数点の移動に課題が見られる。</p>	<p>・小数の大きさについては、数直線を用いて示された大きさを捉えられるように引き続き指導していく。</p> <p>・概念的な問題への苦手意識の改善や、基礎的な計算の力を更に身に付けさせるため、ドリルやICT機器を用いて復習をしていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均を0.3ポイント下回った。</p> <p>○展開図や作図などがよくできている。特に面積の求め方に関しては市の平均より高く、学習の定着が見られた。</p> <p>●角度に関する問題が市の平均より低く、課題が見られた。</p>	<p>・デジタル教科書を活用し、角度の測り方を確認したり、180度や360度を基にした計算で角度を求める問題に取り組みせたりして、視覚的にもわかりやすいように角についての理解を深める。</p> <p>・体積を求める問題など、辺や面に関わる問題に取り組みせ、図形への理解を深める。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均を2.2ポイント上回った。</p> <p>○全体的に市の平均とほぼ同じか高い。特に割合を使った比べ方に関してはとてもよくできている。</p> <p>●比べる数ともとになる数を求める問題では課題が見られた。</p>	<p>・授業の中で、数直線を活用する活動を意図的に取り入れ、数直線を基に「比べる数」と「もとになる数」を求められるように指導を工夫する。</p> <p>・伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題に多く取り組みませ、割合を使った計算についての理解の定着につなげる。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均を3.1ポイント上回った。</p> <p>○ほぼ全ての問題で市の平均より高く、視覚的な問題や直感的に判断できる問題はよくできている。</p> <p>●折れ線グラフに関する問題で課題が見られる。</p>	<p>・算数以外の教科でも、グラフや表に関わる活動に多く取り組みませ、引き続きデータを読み取る力を向上させていく。</p> <p>・ドリルやICT機器を活用し、表やグラフを読み取る活動に取り組みさせることで、表やグラフについての理解を深める。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	55.2	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	49.1	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	62.1	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	61.7	67.2	64.6
観点	知識・技能	58.5	60.8	59.2
	思考・判断・表現	54.1	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均を9.2ポイント上回った。</p> <p>○簡易検流計の針の振れ方から分かることを答える問題では、県平均より15.3ポイント上回っている。</p> <p>●電流が同じ大きさの回路を選ぶ問題では、市の平均を3.3ポイント下回っている。</p>	<p>・全体的に、基礎的な知識や技能は定着している。暗記をするのではなく、事象として理解できるよう指導する。めあてを明確にし、仮説を立てて実験を行い、結果をまとめ考察をするという学習の展開を大切にして指導することで、科学的な思考力を高めていくようにする。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均を8.6ポイント下回った。</p> <p>○水でっぼうから水が出る理由を選ぶ問題では、市の平均より8.7ポイント上回っている。</p> <p>●空気と金属を温めた時の体積の変化の大きさを比べて答える問題では、市の平均より31.6ポイント下回っている。</p>	<p>・温度の変化と金属、水及び空気の温まり方や体積の変化とを関係付けるとともに、それらについての理解を図り、金属、水及び空気の性質についての見方や考え方もつことができるようにする。さらに、身近な生活での出来事と合わせて考えられるように指導していく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均を5.7ポイント下回った。</p> <p>●季節の順に並べた、イチョウの記録を選ぶ問題では、市の平均より10.7ポイント下回っている。</p> <p>●腕を伸ばした時に、筋肉の様子を選ぶ問題では、市の平均より5.1ポイント下回っている。</p>	<p>・全体的に、基礎的な知識や技能は定着が不十分である。今後は、校庭や中庭にある植物の観察等を積極的に取り入れるとともに、インターネットやDVDなどの映像資料を活用して、具体的な自然現象を想起させながら、知識の定着を図っていくようにする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均を5.7ポイント下回った。</p> <p>●季節の順に並べた、イチョウの記録を選ぶ問題では、市の平均より10.7ポイント下回っている。</p> <p>●腕を伸ばした時に、筋肉の様子を選ぶ問題では、市の平均より5.1ポイント下回っている。</p>	<p>・全体的に、基礎的な知識や技能は定着が不十分である。今後は、校庭や中庭にある植物の観察等を積極的に取り入れるとともに、インターネットやDVDなどの映像資料を活用して、具体的な自然現象を想起させながら、知識の定着を図っていくようにする。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「だれに対しても、思いやりの心をもってやっている。」の肯定的回答割合は93.1%で、市や県の平均をともに上回った。道徳や学級活動などで、思いやりのある行動や温かい心をもって人に接する大切さについて考える時間を引き続き大切にしていきたい。また、日常生活の中でも思いやりのある行動を認め、よさを伸ばしていく声掛けをしていきたい。

○●「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の肯定的回答割合は89.7%、「授業を集中して受けている。」の肯定的回答割合は89.7%である。市や県の平均をともに上回った。「むずかしい問題にであつと、よりやる気が出る」の肯定的回答割合は38%、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」の肯定的回答割合は53.5%と市や県の平均を下回っている。各教科の授業の中で、探究的・協働的学習を意図的に取り入れながら、児童が自分から学びに向かう力を育てたり、課題達成の喜びを感じたりできるような活動を行いたい。

○●家庭での学習については、「学校の宿題をしている。」の肯定的回答は98.2%で市や県を上回った。一方で、「家で学校の授業の復習をしている。」の肯定的回答割合は32.7%、「学校の授業の予習をしている。」の肯定的回答割合は34.5%と、共に市や県の平均を下回っている。宿題に取り組むことを基本として、家庭学習強化週間を活用して、自主学習への取り組みを推奨し、さらに家庭学習の定着を図れるよう、家庭と連携しながら指導していきたい。

○●「自分は勉強がよくできる方だと思う。」の肯定的回答割合は48.3%で、市や県の平均を下回った。一方で、「先生は学習のことについてほめてくれる」の肯定的回答割合は91.4%と市や県の平均を上回っている。このことから、各授業の中で理解に即した授業を行いつつ、引き続き、児童のできるようになったことや良さを見つけ、称賛していくことで自己肯定感の向上を図りたい。

●「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」の肯定的回答割合は65.5%である。市や県の平均を共に下回った。児童の学習内容の定着や主体的に学習へ取り組む姿勢の向上のため、授業に振り返る活動を更に取り入れていきたい。

○「しょう来のゆめや目標をもっている。」の肯定的回答割合は91.4%である。9割以上の児童が将来に対しての夢や目標をもっている。また、「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」の肯定的回答割合は94.8%である。こちらも9割を超えており、意義をもって授業や学習に臨んでいることが伺える。キャリア教育等、各授業で児童の将来に役立てるような授業や活動を行い、児童の将来への意欲をさらに高めていきたい。

●平日のTV・DVD・動画の視聴時間について、2時間～4時間以上の回答は58.7%と6割近くになっている。このうち27.6%が4時間以上と回答している。また、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯型ゲーム、スマートフォンを使ったゲーム)を2時間～4時間以上するとの回答は55.1%で、4時間以上と回答しているのは24.1%であった。これらから、平日の多くの時間を費やしていることになる。時間を計画的に使い、睡眠、宿題、自主学習などの時間を十分確保できるよう、家庭と連携しながら指導したい。

宇都宮市立御幸が原小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	4月に「家庭学習の手引き」を各家庭に配付し、学年に応じた家庭学習の時間の目安や内容の提示と啓発 5月、1月に「家庭学習強化週間」を実施し宿題や自主学習の習慣化や取り組み方の周知	「家で学校の宿題をしている」の肯定的回答割合は、4年生が93.4%、5年生が98.2%と高かったが、「家で計画を立てて勉強をしている」「家で学校の授業の予習をしている」「家で学校の授業の復習をしている」と答えた児童の割合は、市や県より下回っていた。
主体的に学びに向かう授業のデザイン	見通しをもって粘り強く取り組めるような課題の設定や提示の仕方の工夫 成果や自分の成長、つまずきを実感できるような振り返りの工夫	「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」の肯定的回答は4年生では市や県の平均を上回ったが、5年生では下回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
漢字の読み書きについて、4・5年生ともに市の平均を下回った。特に書き問題については10ポイント以上下回り、既習漢字の定着に課題が見られた。	漢字オリンピックテストの実施	1学期に1回、全学年でほぼ同時期に漢字のまとめテストを行う。事前に練習時間や機会を十分にとってから実施する。家庭にも実施を周知し、家庭学習でも準備を依頼する。「めざせスーパーみはらっ子」の活動を活用し、主体的に取り組めるようにする。